

自分の「思い」がなければ、前には進まない。

特定非営利活動法人ふれあいほうむ どうぞ 小林敬子さん



何か自分でやるぞ！と決めて動き始めることが大事です。人は後からついてきますよ！（小林さん）

特定非営利活動法人「ふれあいほうむ どうぞ」は、平成10年に市民互助型の有償ボランティアの活動を行うことを目的として設立。お互い少し助けてもらえたら嬉しいという思いをもって活動を開始されました。その後、作業所部を設立し、年齢や障害の有無を問わず互いに助け合いながら活動を実施。現在は、「ハイ・どうぞ」というランチ・配食の店を拠点にJR二条駅近辺の地域との取組も始められており、今回は「二条駅かいわいまちづくり実行委員会」についてお話を伺ってきました。



■二条駅かいわいまちづくり実行委員会について教えてください。

実行委員会は現在、4年目を迎えています。これまでに立命館大学と連携した「歴史まちあるき」や「京都カーフリーデー」、「二条駅かいわい土曜マルシェ」など様々な取組を協力し合いながら実現してきました。また、「二条駅かいわいMAP」という地図をつくり、地域のユニークなお店を紹介しています。

■どうやって実行委員会が結成されましたか？

この団体の運営は、私たちが主体となっていますが、始まりは当法人が作業所としての5周年を記念して企画した「梅尾公園ふれあいまつり」でした。

私たちは、新たに京都市の開発地区となったこの地域で、まずは地域の人達が日常的につながりやすく住みやすい場所を作りたいと考えていました。その中で、作業所に通所する者への理解も広げて深めていきたいと思いました。

そこで企画したお祭りを進めていくのですが、様々な許可を得たり、企画を考えていく中で、私たちだけでは実施することが難しかったのです。そこで、小倉町の方々や学区の方に声をかけたことで委員会が生まれました。そして、この困難を一緒に乗り越えたことで、自信が付くと同時にチームが生まれていった気がします。



■良かった点や苦労された点はありますか？

何か自分でやるぞ！と決めて動いていると、次第に周りからすると、「トイレを使ったら」とか、「交通安全を引き受けますよ」と声をかけてくださりました。開催したお祭りも最終的には、500人の来場予想を上回り、倍の1000人の方に来ていただけたということも開催して良かったと思える点です。

苦労した点は、いろいろな許可を得る申請が通らずに困ったことでした。ただ、これも災いが転じてか、地域の方々とつながるきっかけを生んだ出来事でした。

■現在の「二条駅かいわいMAP」を含め、事業の費用はどうされていますか？

費用はすべて持ち出しになっています。現在は会員に月会費600円を頂いています。この点は、現在の課題の一つになっていますね。

■今後はどういったことを検討されていますか？

現在は子育ての講座企画を検討しています。これは、保健所へ行ったときに場所が確保できないという課題を聞いていたのですが、たまたま縁あって立命館大学さんに場所を借りれるということになり、始まりました。

出前保育というカタチでやっていた方々と連携しながら開催すると、1回に50~60組が来てくれたそうです。そういう経験を経て、毎月第4水曜日に、「二条かいわいちびっこひろば」を立ち上げようと思っています。そういった入口から、今度は地域のママ達との繋がりが生まれていくと考えています。

■最後に他のNPO団体さんにメッセージをお願いします。

まずは、自分たちの団体が実現したいことを明確に考えることが大事だと思います。そして、そのための企画やアイデアに対して、どれだけ思いを「でかく・熱く・重く」持っているかが重要だと私は考えています。

その先に、町内会や学区の皆さんのニーズがあり、もしかすると一緒に解決できることがあるかもしれないといったところです。だからこそ、1回だけのイベントを企画するのではなく、継続的な場をつくることも大事だと思います。